

# 「れきはく」で学ぶ京都・奈良

## —修学旅行の事前学習としての活用—

八千代松陰中学校 緑川 仁崇

### 1. 実施学年及び教科・領域

中学校第2学年 社会科・総合的な学習の時間

### 2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 主題名 「れきはく」で学ぶ京都・奈良

(2) ねらい

#### ①学習指導要領との関連

中学校学習指導要領・社会・歴史的分野の2内容(1)イ「身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる。」および、3内容の取扱い(2)イ「イについては、内容の(2)以下とかかわらせて計画的に実施し、地域の特性に応じた時代を取り上げるようにするとともに、人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取扱いを工夫すること。その際、博物館、郷土資料館などの施設の活用や地域の人々の協力も考慮すること。」に対応する。

#### ②京都・奈良方面の修学旅行の事前学習

私の勤務校では毎年3月下旬に3泊4日で京都・奈良方面への修学旅行を実施している。本校の修学旅行は京都市街を拠点に、1日目に京都、2日目に奈良の班別研修(ともに現地のボランティアガイドによる案内)、3・4日目に京都のクラス別研修(観光バスで移動)という日程で行われている。その事前学習として、歴博の利用を2012年度から始めており、今年が2回目の実践である。

事前学習の主なねらいは、修学旅行における生徒各自の研修テーマの設定にいくつかのヒントを提示することである。京都の町並みの景観にはその歴史や文化が色濃く反映されている。歴博の展示は、そのような特色ある都市への理解をより深めるためにとっても効果的な教材であると考えられる。生徒たちには、平城京・平安京における人々の生活を学ぶことによって、その歴史や文化をより具体的に、より身近に感じてほしいと思う。きっと観光ガイド等による名所の紹介・解説とは異なる視点を新たに見出すことができるのではないだろうか。

今回は第1・2展示室から京都・奈良に関連する展示をピックアップして、見学プログラムを構成した。歴博の展示を通して気付いたこと、疑問に思ったことを現地での研修に生かし、自分なりの視点から京都・奈良の歴史や文化を見つめていく姿勢を引き出したい。

なお、この実践を今後も発展的に継続させていくためにも、なるべく引率する教員が活用しやすいプログラムとなるように工夫したつもりである。

### (3) 博物館との関連

#### ①活用した展示資料

- ・第1展示室「律令国家」  
羅城門の復元模型・都城と村落・正倉院文書の世界
- ・第2展示室「王朝文化」  
東三条殿復元模型・貴族の生活・片仮名字体変遷表
- ・第2展示室「大名と一揆」  
「洛中洛外図屏風」・京都の町並み復元模型
- ・貸し出し教材  
「洛中洛外図屏風」の床置きパネルをガイダンスルームに設置し、屏風に描かれた細部の観察を行う。

### 3. 指導計画

#### (1) 事前指導

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
事前指導①	10月下旬	●京都の名所・史跡・文化 ○班別研修コースの選定	□生徒が興味を持てるよう、説明に終始しないように気をつける。写真や地図を用いたり、クイズ形式を取り入れるなどの工夫をする。
事前指導②	2月中旬	●校外学習の行程及び見学マナーの確認 ○しおり及びワークシートの配布・必要事項の記入	□当日現地での指示が多くならないように、必要な連絡はここであらかじめ済ませておく。

#### (2) 当日指導(2時間)

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入 講堂	30分	●「室町時代の京都の人々のくらし」(第1部) ○博物館職員による「洛中洛外図屏風」に関するガイダンスを受講する。	□興味を持ったことや疑問に思ったことについて、ワークシートにメモをとらせる。 ■関心を持って解説を聴き、本日の見学のポイントを的確におさえることができたか。 <ワークシート：関>
展開① 第1展示室	25分	●「奈良時代の役人のくらし」 ○「平城京の立地と規模」・「役人の働きぶり」・「役人の食生活」・「行政文書の役割」の4つのテーマの中から1つを選	□それぞれのテーマに該当する展示がある場所を知らせる等、近くにいる教員が適時アドバイスを送る。 □解説の文章を書き写すのではな

		び、それぞれに関連する展示を見学して気付いたことを指摘する。	く、読みとれたことや感じたことを自分の言葉でまとめさせる。 ■展示資料をよく観察し、読みとったことばをまとめることができたか。 <ワークシート：思・技>
展開② 第2 展示室	25分	●「平安時代の貴族のくらし」 ○「平安京の立地と規模」・「貴族の邸宅」・「貴族の服装」・「平仮名と片仮名」の4つのテーマの中から1つを選び、それぞれに関連する展示を見学して気付いたことを指摘する。	□■上記の展開①と同じ。
展開③ 第2 展示室	20分	●「室町時代の京都の人々のくらし」(第2部) ○京都四条室町の模型の中の人々やお店に注目し、何をしているのか、また、何を売っているのかを考える。	□模型に表現された場所を隣に展示されている「洛中洛外図屏風」の絵の中から探してみるように、近くにいる教員がアドバイスを送る。 ■模型をよく観察し、当時の人々のくらしを想像することができたか。 <ワークシート：思>
展開④ ガイダンス ルーム	20分	●「屏風から京都の観光名所を探そう！」 ○「洛中洛外図屏風」に描かれた京都の町並みの中から修学旅行で訪れる予定の見学地を探す。	□床置きパネル(左隻・右隻)を向かい合わせて並べ、方角(東西南北)の表示を四方の床に貼ることで京都の町並みの空間把握ができるようにする。 □代表的な寺社や通りには名称を記した付箋を貼る。 □パネルの上を靴を脱いで歩くことで、対象をより近くから観察できるように促す。 ■屏風をよく観察し、京都の町並みを空間的に捉えることができたか。 <ワークシート：技>

### (3) 事後指導

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
事後指導①		○ワークシートの提出 ○修学旅行における研修テーマの設定	■自分なりの視点を持ち、研修テーマを設定することができたか。 <ワークシート：思>
修学旅行	3月 下旬 3泊 4日	○京都・奈良における各研修 1日目 京都班別研修 2日目 奈良班別研修 3日目 京都クラス別研修 4日目 京都クラス別研修	
事後指導②		○研修の成果に基づくレポートの作成	□レポートの展示・発表の場を設ける。 ■テーマに対して考察を深めることができたか。 <レポート：思・技・知>

### 4. 実践の概要

(1) 日時 平成26年2月13日(木) 9:30~12:00

(2) 対象 中学校第2学年 計253名

(3) 日程

時間	行動	備考
9:30	集合完了	□講堂出入口(博物館出入口の横)付近に集合 入館後、講堂内の指定された席に着く □出席確認・点呼=代議員→担任→学年主任
9:35	諸連絡	□司会・進行=生徒会役員 □学年主任からの話
9:40	ガイダンス	□博物館職員による「洛中洛外図屏風」のガイダンス
10:15	見学開始	□1組から順番に入館
11:45~ 12:00	見学終了	□見学終了後は班員が揃ったグループから順次、 京成佐倉駅へ向かう

(4) 事前指導

#### ①京都の見どころ紹介

班別研修コースの選定にあたり、10月下旬のLHRの時間に本校記念ホールにて学年集会をひらき、京都の主な見どころを紹介した。「洛中洛外図屏風」を題材にしたクイズ形式のスライドなどを用いて、京都を代表する名所・史跡・文化について学んだ。

《使用したスライドの一例》



## ②校外学習のしおり及びワークシートの配布

校外学習実施直前の社会科の授業にて配布し、学習内容や見学マナーの確認を行った。

### (5) 当日指導

昨年、初めて実践を行った際は、班ごとにクイズ形式の問題を解きながら展示を見学していく方法をとったが、約2時間の見学時間では問題を解くだけで精一杯になってしまった。そのため、今回はテーマを「平城京・平安京の暮らし」に絞り込み、各自が課題について調べてワークシートにまとめる方法をとった。また、引率教員には展示に関する情報を事前に共有してもらい、当日は各展示室にて適時アドバイスを送ってもらった。

#### <導入> (講堂)

講堂にて、博物館職員による「洛中洛外図屏風」に関するガイダンスを20分受講した。その際、ガイダンスを聴きながら、興味を持ったことや疑問に思ったことはワークシートにメモをとらせた。

#### <展開①> (第1展示室)

「奈良時代の役人の暮らし」をテーマに、「平城京の立地と規模」・「役人の働きぶり」・「役人の食生活」・「行政文書の役割」の4つの課題の中から1つを選び、それぞれに関連する展示を見学して気付いたことをワークシートにまとめる取り組みを行った。

#### <展開②> (第2展示室)

「平安時代の貴族の暮らし」をテーマに、「平安京の立地と規模」・「貴族の邸宅」・「貴族の服装」・「平仮名と片仮名」の4つの課題の中から1つを選び、それぞれに関連する展示を見学して気付いたことをワークシートにまとめる取り組みを行った。

#### <展開③> (第2展示室)

「室町時代の京都の人々の暮らし」をテーマに、京都四条室町の模型を用いて、模型の中の人々とお店に注目し、何をしているのか、また、何を売っているのかを考察する活動を行った。

#### <展開④> (ガイダンスルーム)

ガイダンスルームにて「屏風から京都の観光名所を探そう！」をテーマに、「洛中洛外図屏風」に描かれた京都の町並みの中から、修学旅行で実際に訪れる予定の見学地を探し出す取り組みを行った。なお、床置きパネル（左隻・右隻）は向かい合わせて並べ、方角（東西南北）の表示を四方の床に貼り、代表的な寺社や通りには名称を記した付箋を貼った。生徒たちは左隻と右隻の間に立つことになるが、事前にそのような準備をしておくことで、京都の町並みの空間把握がしやすくなり、どこに目当てのものが描かれているのかもわかりやすくなる。見学時間中はガイダンスルームに教員が付き、屏風の鑑賞の方法などのアドバイスを適時送った。また、パネルの上を、靴を脱いで歩くことで、対象をより近くから観察するように促した。



ガイダンスルームでの実践の様子

※引率生徒数が多いため、生徒が一つの展示室に集中しすぎないように、展開①～④に関しては、どの順番で取り組んでもよいこととした。

#### (6) 事後指導

- ①校外学習終了後、ワークシートを完成させた上で提出させ、修学旅行における各自の研修テーマを設定させた。
- ②修学旅行の研修の成果をもとに、春休みにレポートを作成させる予定。また、その展示・発表の場を設けたいと考えている（文化祭での発表を検討している）。

### 5. 成果と課題

#### (1) 成果

今年度の実践では、見学の始めに博物館職員の方より「洛中洛外図屏風」に関するガイダンスを行っていただいた。そのため、昨年度に比べて、生徒たちが展示資料に対して示す興味・関心の度合いは高かったと感じている。以下は生徒の感想の一例であるが、歴博の展示ならではの「人々の生活」という視点から京都の町並みを捉えている記述が多く見られたので、こちらのねらいに対して、一定の成果は得られたと考えている。

- ・「京都の町並みが今はどれだけ変わったのか、また、昔の雰囲気がどれだけ残っているのかを現地に行って見てみたいです。」
- ・「京都の町並みは昔からきれいに整備されていたことがわかったので、実際に歩いたらどんな感じがするのか確かめてみたいです。」
- ・「模型の中にあった町の着物屋や扇子屋と似たようなお店が現在もあるかもしれないから探してみ

たい。」

- ・「お寺を見るとというのは、昔の人が見ていたものと同じ景色を見ることになるんだなと思うと、とてもわくわくします。」
- ・『洛中洛外図屏風』に小さくしか描かれていなかった銀閣寺を見てみたい。当時はあまり注目されなかったほどのシブさがとても気になる。」
- ・「人々の生活を貴族や武士、庶民のさまざまな階層の立場から調べてみたい。」

## (2) 課題

### ①事前指導の充実

より計画的に修学旅行の事前学習に取り組んでいく必要があると感じた。2学期までの活動では班決めや見学コースの選定を中心に進めているが、早い時期から3学期の歴博見学も視野に入れた事前学習に取り組んでいけば、生徒たちもより関心を持って見学できるはずだ。また、見学の目的や方法を事前に生徒や引率教員により明確に示しておく準備が大切だと感じた。特に他の引率の教員の協力をいかに得ていくかという点が今後の重要な課題である。

### ②見学時間と学習活動の見直し

本校の実践は生徒数が多く、午後から別の場所での行事も予定されているため、約2時間で行っている。他校がこの実践を行うことを想定した場合、時間が許すのであれば本来はじっくりと見学する時間を確保した方がよい。そのため、下記の改善案では4時間の指導計画に修正した。また、展開①と②の学習活動については、引率する生徒の実態に合わせて、どの展示資料の、どこに注目するのか、などの指示をより明確にする工夫が必要になると思う。

## 6. わたしの考える歴博活用案（改善案）

### 指導計画（4時間）

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入 講堂	45分	●「室町時代の京都の人々のくらし」（第1部） ○博物館職員による「洛中洛外図屏風」に関するガイダンスを受講する。	□興味を持ったことや疑問に思ったことについて、ワークシートにメモをとらせる。 ■関心を持って解説を聴き、本日の見学のポイントを的確におさえることができたか。 ＜ワークシート：関＞
展開① 第1 展示室	50分	●「奈良時代の役人のくらし」 ○「平城京の立地と規模」・「役人の働きぶり」・「役人の食生活」・「行政文書の役割」の4つのテーマの中から1つを選	□それぞれのテーマに該当する展示がある場所を知らせる等、適時アドバイスを送る。 □解説の文章を書き写すのではなく、読みとれたことや感じたこと

		<p>び、それぞれに関連する展示を見学して気付いたことをワークシートに記入する。</p>	<p>を自分の言葉でまとめさせる。</p> <p>■展示資料をよく観察し、読みとったことがらをまとめることができたか。</p> <p>&lt;ワークシート：思・技&gt;</p>
展開② 第2 展示室	50分	<p>●「平安時代の貴族の暮らし」</p> <p>○「平安京の立地と規模」・「貴族の邸宅」・「貴族の服装」・「平仮名と片仮名」の4つのテーマの中から1つを選び、それぞれに関連する展示を見学して気付いたことをワークシートに記入する。</p>	<p>□■上記の展開①と同じ。</p>
展開③ 第2 展示室	50分	<p>●「室町時代の京都の人々の暮らし」(第2部)</p> <p>○京都四条室町の模型の中の人々やお店に注目し、何をしているのか、また、何を売っているのかを考察する。</p>	<p>□模型に表現された場所を隣に展示されている「洛中洛外図屏風」の絵の中から探してみるようにアドバイスを送る。</p> <p>■模型をよく観察し、当時の人々の暮らしを想像することができたか。&lt;ワークシート：思&gt;</p>
展開④ ガイダンス ルーム	45分	<p>●「屏風から京都の観光名所を探そう！」</p> <p>○「洛中洛外図屏風」に描かれた京都の町並みの中から修学旅行で訪れる予定の見学地を探す。</p>	<p>□床置きパネル(左隻・右隻)は向かい合わせて並べ、方角(東西南北)の表示を四方の床に貼ることで京都の町並みの空間把握ができるようにする。</p> <p>□代表的な寺社や通りには名称を記した付箋を貼る。</p> <p>□パネルの上を靴を脱いで歩くことで、対象をより近くから観察できるように促す。</p> <p>■屏風をよく観察し、京都の町並みを空間的に捉えることができたか。&lt;ワークシート：技&gt;</p>



《今回の実践で使用したワークシート》

八千代松陰中学校 第2学年 校外学習

「れきはくで学ぶ京都・奈良」～修学旅行へ向けて～

研修テーマ 「平城京・平安京の人々の暮らし」

1. 「室町時代の京都の人々の暮らし」(第1部)→講堂(ガイダンス)・約 20 分

<課題①> 博物館職員の方のガイダンスを聴いて、「洛中洛外図屏風」についてわかったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどをメモしましょう。

◎本校生徒の記述

- ・四季が描かれている。 ・身分の高い女性は髪の毛を見せない。
- ・ショーウインドウのように商品を見せて販売している。 ・室町通りは人通りが多い。
- ・こんなにいろいろなものが京都には集まっていたんだなと思った。
- ・銀閣寺は当時あまり有名でなかったため小さく描かれている。
- ・馬や牛が物を運んでいる。 ・猿が芸をしている。 ・にわとりがたたかっている。
- ・季節の行事や仕事が描かれている。 ・一人ひとりの人物にストーリーがありそう。
- ・身分によって髪型、服装、持ち物がちがう。 ・毎日お店が営業している。
- ・お祭りが行われている。 ・今の金閣寺や清水寺と建物がちょっとちがう。

2. 「奈良時代の役人の暮らし」→第1展示室「律令国家」・約 25 分

[時代背景]

唐の制度をもとに律令がつくられ、新しい政治のしくみが整いました。天皇と貴族が都から全国の土地・人民を統治しようとしてしました。

<課題②> 次のア～エのテーマの中から関心のあるものを一つ選び、展示を見学して気がついたことがらを挙げてください。

【 ア.平城京の立地と規模 イ.役人の働きぶり ウ.役人の食生活 エ.行政文書の役割 】

◎本校生徒の記述

- ・羅城門を支えている柱はかなり太そう。 ・屋根がわらを使っている。
- ・(羅城門の)屋根の裏の複雑な形はどうやって作ったのか気になる。
- ・この時代に2階建ての建物があるのが意外だ。 ・平城京には曲線の道がない。
- ・羅城門から平城宮まではかなり距離がある。平城京はとても広い。
- ・上級役人と下級役人では食事の内容が全然ちがった。栄養もだいぶ差がある。
- ・上級役人の食事は魚や野菜が多く、現代も食べられているものがたくさんある。
- ・役人にもはっきりした上下関係があり、大きな格差がある。
- ・文書の紙は再利用されていた。昔は今よりも紙が貴重だった。

### 3.「平安時代の貴族のくらし」→第2展示室「王朝文化」・約 25 分

〔時代背景〕

摂関政治の頃、都では国風文化と呼ばれる日本独自の文化がみられるようになりました。  
 <課題③> 次のア～エのテーマの中から関心のあるものを一つ選び、展示を見学して気がついたことがらを挙げてください。

【 ア.平安京の立地と規模 イ.貴族の邸宅 ウ.貴族の服装 エ.平仮名と片仮名 】

◎本校生徒の記述

- ・平城京と似たような地形。 ・東側を中心に町が発展している。
- ・自分の家に池や川、橋を造っている。そもそも、どうやって庭に水を引いてきたのか？
- ・十二単はとても暑くて重そう。地位の高い人たちも大変そうだ。
- ・十二単と言っても 12 枚重ね着しているわけではない。
- ・男性も重ね着しているが、服装は女性に比べてシンプル。
- ・服の丈がすごく長い。歩くときにじゃまになりそう。 ・女の人は髪が相当長い。
- ・現在のカタカナと似ているものがほとんどだけど、全然似てないものもけっこうある。
- ・現在使用されている字体に統一されるのには何百年もかかっている。

### 4.「室町時代の京都の人々のくらし」(第2部)→第3展示室「大名と一揆」・約 20 分

〔時代背景〕

特に戦国期になると人々は地域ごとに連帯感を強め、その地域や集団を自治的に治めようとする動きが出てきました。

<課題④> 「洛中洛外図屏風」に描かれた京都・四条室町の町並みを再現した模型があります。模型の中の人々に注目してください。何をしている人がいますか。また、お店に注目してください。お店では何を売っていますか。それぞれ3つ挙げましょう。

人々	1.	2.	3.
お店	1.	2.	3.

### 5.「屏風から京都の観光名所を探そう！」→ガイダンスルーム・約 20 分

<課題⑤> 「洛中洛外図屏風」の床置きパネルがガイダンスルームに設置されています。屏風に描かれた絵の中から、京都の班別行動やクラス別行動で訪れる見学地を探してみましょう。見つけたら下のリストの番号に○を付けましょう。※修学旅行では「能楽」を鑑賞しますが、その様子も屏風の中に描かれているので、探してみてください。

【京都・見学予定地】

1日目(班別)	1.	2.	3.	4.
3日目(クラス別)	1.	2.	3.	4.
	5.	6.	7.	8.
4日目(クラス別)	1.	2.	3.	4.

2年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_